

低学年

- 主題名 ともだちを おもう ころ（B 友情、信頼）
- 教材名 「モムンとヘーテ」
- ねらい 友だちどうしで対立したり、けんかしたりすることがあっても、友だちと仲よくし、助け合っていこうとする心情を育てる。
- 学習指導過程

	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	具体的な指導・援助
導入 5分	1. 登場人物を紹介し、友だちについて学習することを話す。	・モムンとヘーテが友だちであることを押さえる。
	◇ねらいとする価値への方向付けを行います。※展開の時間を確保するため、短い時間で。	
展開 37分	2. 教材「モムンとヘーテ」の話を聞く。 3. 教材「モムンとヘーテ」について話し合う。 ○モムンはかわだけしかくれなかったヘーテのことをどう思っているのでしょうか。 ・友だちじゃない。 ・嫌いになった。 ・ひどい。 ・友だちなら実をくれてもいいのに。 ○だまっているモムンはヘーテのことをどう思っているのでしょうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><ゆるす> ・友だちだから。 ・一緒に助かる方法を考えよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"><ゆるせない> ・友だちなのに実をくれない。 ・また、いじわるなことをするかもしれない。</div>	・内容を理解するために、ペープサートを用いながら読む。 ・ヘーテの自分勝手な行動に対する多様な感じ方や考え方を引き出し、他者理解をさせ、自分がどの気持ちが強いか自分とのかかわりをもたせる。 ◇友だちは大切（道徳的価値）とわかっていても、なかなか実行することができない人間の弱さを理解させます。 ・ヘーテの言葉を黒板に貼ることで、黙っているモムンの気持ちを考えさせる手立てとする。 ・二人で助かる方法を考えるという意見が多いときは、「モムンのことを心配するヘーテに対して、それでも黙っているのはどんな気持ちがあるからだろうか。」と問いかけ、友だちのことを許せない気持ちがあることを意識させる。 ・板書で整理し、自分は何の気持ちが強いか問いかける。
	◇ねらいとする内容項目に関係しない反応があったときは、ねらいに迫る発問を再度行います。	
	◇自分との関わりを大切にするための指導です。	

	<p>◎モムンが「いっしょににげよう。」と言ったのは、なぜでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実をくれなかったけど、ヘーテは大切な友だちだから、助けたい。 ・友だちだから、一緒に逃げようと思った。 ・おいて行ったら友だちじゃない。 ・ヘーテと友だちでいたいから。 ・一緒に逃げなきゃ危ないと思ったから。 ・ヘーテが死んでしまうから、助けたい。 <p>○栗のかわにのったモムンとヘーテはどんなお話をしているのでしょうか。</p> <p>《役割演技》</p> <p>教師（ヘーテ）「モムン、ありがとう。」</p> <p>児童（モムン）「友だちだから、あたりまえだよ。」</p> <p>「1人より2人のほうが安心だね。」</p> <p>「仲直りできたから一緒に助かったね。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・モムンの心の揺れを確認後、それでも一緒に逃げようと言ったモムンの気持ちをワークシートに書き込ませる。 ・板書で整理し、友だちというキーワードに着目できるようにする。 <p>◇「予想される児童の反応」を、多く予想しておく、授業でねらいを踏まえた指導ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師（ヘーテ）と児童（モムン）で役割演技をすることで、友だち同士が助け合うことのよさを感じられるようにする。 ・役割演技の中から価値につながる言葉を板書する。
<p>終末3分</p>	<p>4. 自分の生活を振り返る。</p> <p>○友だちとけんかをして仲直りをしたことや、友だちが困っているときに助けたり、友だちに助けってもらったりしたことはありましたか。その時、どんなことを思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣の席の子が忘れ物をして困っていたから、貸してあげた。 ・けんかしたけど、仲直りして一緒に遊べた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返ってワークシートに書かせる。 ・仲直りした経験や友だちを助けた行為や助けられた行為だけを振り返るのではなく、その時の気持ちにも気づかせたい。
	<p>5. 教師の話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間があれば、児童の経験を学級全体に広げ、実践への意欲につなげたい。

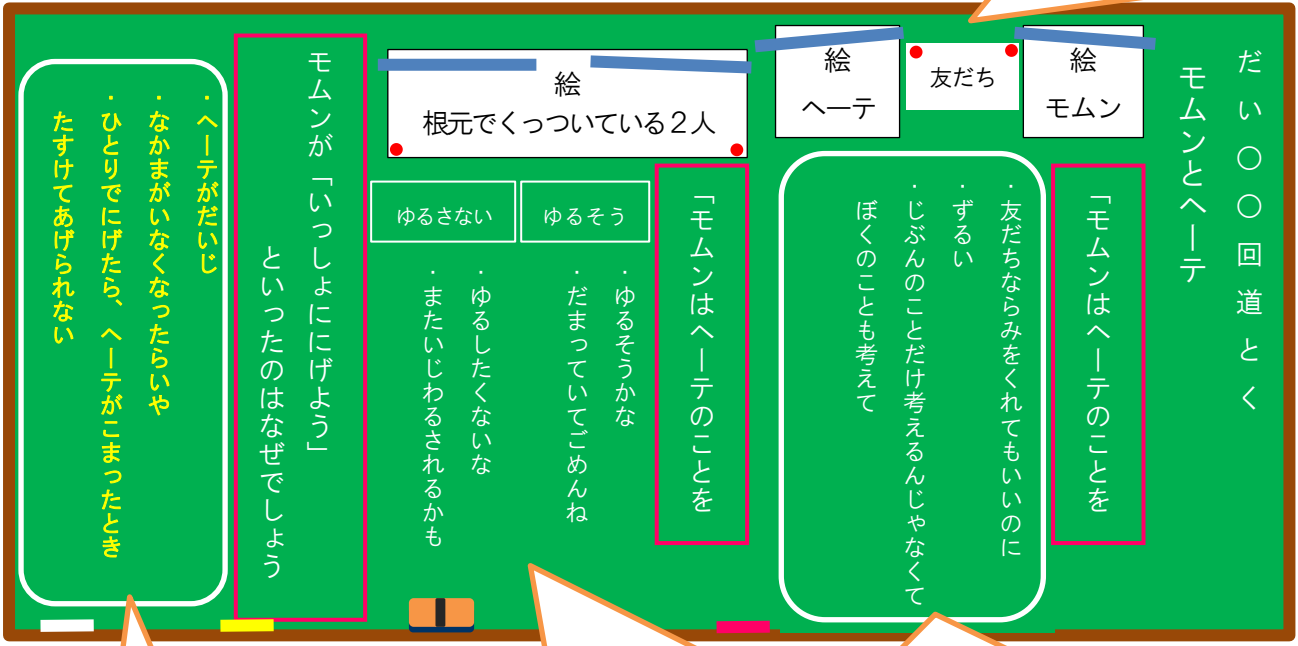
◇ねらいである「友だちと仲よくし、助け合うこと」のよさを感じられるための役割演技です。

◇展開後段の子どもの発言の方が、教師が事前に準備した内容よりもよい場合は、子どもの発言した姿を価値付ける場合もあります。

◇授業後に、道徳科の授業の内容を掲載した学級通信などを基に、家庭での対話を行うことが道徳教育の充実につながります。

<板書計画>

◇登場人物を絵で示すと身近に感じることができます。



◇意見を言うのが苦手な児童には、「どれが自分の気持ちに近いかな」などと板書を活用して問いかけると、自分との関わりをもたせることができます。

◇同じ意見はネームプレートで示すなどし、発言の内容は整理して書きましょう。

◇友だちのよさに関わるキーワードを色チョークで示すことで、友情・信頼について自己を見つめるときの援助として活用できます。